

Ex Librisユーザーアカウント

システムに存在する特定の「Ex Libris」ユーザーアカウントがあり、Ex Librisは、サポートへの切り替え前にAlma、PrimoVE、Leganto、Esploroを実装するため、およびサポートへの切り替えの後に環境へのアクセスを必要とするエスケーションされたサポートケースのために使用します。

サポートへの切り替え後、Ex Librisサポートによる機関へのそのようなアクセスは顧客に承認された後にのみ行われます。さらに、そのようなアクセスは、監視され、完全に記録される安全なログインプロセスを介してのみ行われます。

APIゲートウェイとシステム間の統合の一部として、技術的な目的で必要な追加のユーザーアカウントも存在します。これには他の目的はないため、Ex Librisスタッフによるサポートまたは実装活動には使用されません。

さまざまなユーザーアカウントとその目的の詳細は、次の表に示した通りです。

歴史的な理由により、以下の名前は異なる場合があります。Ex Librisは、2020年2月から、システムとアナリティクスに表示される名前を標準化する予定です。

ID	名称	目的	メモ
exl_impl	スタッフ、Ex Libris	導入時とサポートへの切り替え後の両方で機関にサポートを提供します。	Ex Librisの実装者として表示されることがあります
exl_support	サポート、Ex Libris	非アクティブ - 現在使用されていません	このユーザーには役職がなく、環境内でアクティビティを実行するために使用することはできません。 このユーザーの名前は「Ex Libris、ブロック?-使用されていません」に?わかります
exl_api	API、Ex Libris	APIゲートウェイと高等教育プラットフォーム間の統合の一部として技術的な目的で使用されます。	このユーザーは、ログインしてシステムでスタッフのアクションを実行するために使用することはできません。
leganto_guest	leganto_guest	ゲストユーザーが Legantoにアクセスできるようにします	このアカウントは削除できません。ただし、force_loginパラメータを使用してゲストとしてアクセスされるページへのログインを要求することにより、ゲストユーザーのLegantoへのアクセスをブロックできます。
rialto_impl	スタッフ、Ex Libris	導入時とサポートへの切り替え後の両方で機関にサポートを提供します。	次のように表示される場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 実装者、Ex Libris • 実装者、Rialto
saas_admin		インフラストラクチャレベルで環境を管理するために使用されます。これは、例えば、スケジュールされたジョブをトリガーするために使用されます。	このユーザーは、ログインしてシステムでスタッフのアクションを実行するために使用することはできません。

サポート関連の活動の一環として作成された、「Ex Libris」という名前の追加のユーザー（Ex Libris、サポートおよび開発など）が存在する場合があります。これは意図的ではなく、そのようなユーザーはEx Librisによって非アクティブ化お

よび削除されます。このようなEx Librisユーザーアカウントの詳細を知りたい、または懸念がある場合は、[サポート](#)にお問い合わせください。